

サンマの豊漁年と不漁年の操業位置変化

福島県水産海洋研究センター 海洋漁業部

1 部門名

水産業－海洋生産－サンマ

2 担当者名

原聡太郎・佐藤美智男

3 要旨

近年、黒潮続流の変化や暖水塊の発生、黒潮流路の北偏傾向（水産庁（2021））等により、サンマの漁場が遠くに形成されることが懸念されている。さんま棒受網漁船の標本船日誌データを用いて、豊漁年が多かった 2017 年以前と不漁年が続く 2018 年以降の操業位置を比較した。その結果、2018 年以降では日本沿岸海域への魚群の南下が遅く、漁期前半（8～9 月）の漁場位置は概ね東経 155 度（釧路港から正東距岸約 870 km）以東となり、2020 年には 2017 年以前には確認されなかった東経 163 度（釧路港から正東距岸約 1500 km）付近での操業が確認された。

- (1) 豊漁年が多かった 2017 年以前は、東経 155 度以西での操業であった（図 1）。
- (2) 不漁年が続く 2018 年以降は、年々東経 155 度以東の操業が増え、2020 年は東経 163 度付近での操業がみられ（図 2）、漁場がさらに遠くに形成されている。

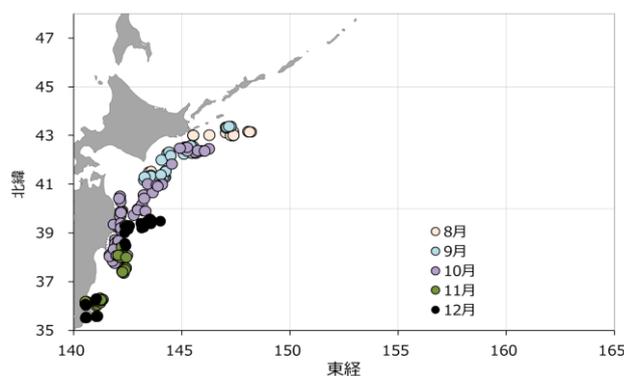


図 1 豊漁年（2008 年）の操業位置
（代表例）

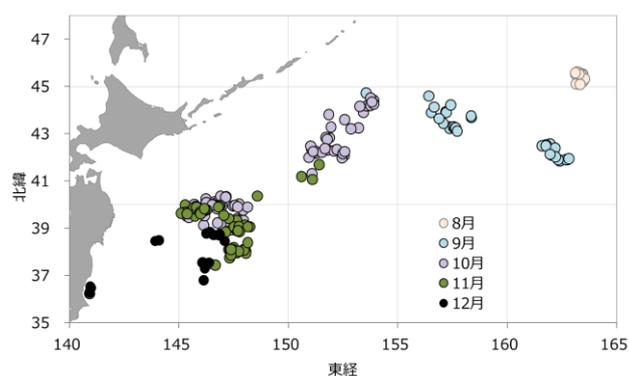


図 2 不漁年（2020 年）の操業位置
（代表例）

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3 年度～令和 7 年度
- (2) 研究課題名 主要浮魚資源動向の把握

5 主な参考文献・資料

- (1) 水産庁，第 1 回不漁問題に関する検討会資料，2021.

https://www.jfa.maff.go.jp/j/study/attach/pdf/furyou_kenntokai-6.pdf